

# 地方医療功労賞に大田さん

## 高齢者のリハビリ体操考案

地域医療への長年の貢献者を顕彰する「第52回医療功労賞」の関東信越地方医療功労賞の受賞者が決まり、県内からは医師で県立健康プラザ(水戸市)の管理者、大田仁史さん(87)が選ばれた。さいたま市で2月1日に開かれる表彰式を前に喜びの声を聞いた。

座る、歩くなどの基本動作が困難な高齢者ら向けに、関節の可動域を広げたり、筋肉を伸ばしたりする「シールバリハビリ体操」を考案した。道具を使わず、いつでもどこでも気軽にできるのを売りとした動きは、



肩関節を広げる「猿まね体操」を実演する大田さん

肩の関節を開く「猿まね体操」など92種類。体操の動画を作成・監修し、インターネット配信も行う。「歴史ある賞をいただき、大変栄誉なこと」と受賞を喜ぶ。

2004年、体操の講習を利根町で初めて実施した。県は翌年1〜3級の指導士資格を設け、「指導士となった住民が住民に教える」というスタイルで全44市町村に普及。県内の指導士は昨年、1万人を突破した。「高齢化社会に不可欠なフレイル(虚弱)予防として、体操がさらに広がってければ」と顔をほころばせる。

高松市生まれ。1962年に東京医科歯科大を卒業し、整形外科医になったが、骨折入院した独居男性を担当したことで「退院後の生活をサポートしたい」と、リハビリ専門医に転身した。県立医療大教授、同大付属病院長などを経て2005年、現職に就いた。現在は、福島県いわき市から水戸に通勤する傍ら、県内外の講演会で介護予防の重要性を訴える。

24年度から体操の3級指導士の養成業務は同プラザから各市町村に移管される。今年是指導士の養成カリキュラム拡充や、要介護者が体操教室に参加できる仕組みを考えたい。最後の仕事と思っただんばりますよ」と柔和な表情で語った。

主催＝読売新聞社

後援＝厚生労働本省、関東信越厚生局、日本テレビ放送網

協賛＝JCRファーマ